

特別養護老人ホームの ユニットケアとは

日赤鶯鳴荘機関誌「うぐいすの声」折込資料



No. 1

★（住民） 特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘では、施設建替え後にユニットケアを始めると・・・お聞きしましたが、そもそも「ユニットケア」とは何なのでしょう？

◆（園長） はい。日赤鶯鳴荘では、全室個室のユニットケアを導入したいと考えています。「ユニットケア」という言葉を初めて聞いたという人、或いは、「ユニットって、料金が高くて・・・」などと思っている人、良く分からないという人が多いと思います。今後、数回に分けて、出来るだけ丁寧にご説明させていただきたいと思います。

Q1 「ユニットケア」とは何なのでしょう？

A

ユニットケアとは、自宅に近い環境の介護施設において、ほかの入居者や介護スタッフと共同生活をしながら、入居者一人ひとりの個性や生活リズムに応じて暮らしていけるようにサポートする介護手法のことを言います。

特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘は、常時入居者を見守りながら必要に応じて介護できる体制をとっています。このことによって、入居者に対しては365日、24時間体制の安心・安全を実現しています。

しかし、その一方で、多くの要介護状態の高齢者を介護するという施設の性格や構造上、多くの人を効率的に介護しようとして、「集団ケア」にならざるを得ない面があります。

しかし、今後は、入居者の尊厳ある生活を保障していくためには、一人ひとりの個性と生活リズムを尊重した「個別ケア」が求められています。この「個別ケア」を実現する一つの手法を「ユニットケア」と言います。

「ユニットケア」の最大の特徴は、入居者個人のプライバシーが守られる「個室」と、他の入居者や介護スタッフと交流するための「居間」(リビング)があることです(参照：裏面の平面図)。入居者10人前後を一つの「ユニット」として位置付け、各ユニットに固定配置された顔なじみの介護スタッフが、入居者の個性や生活リズムを尊重した暮らしをサポートします。

特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘は、新たに建設する施設に「ユニットケア」を導入し、入居者の暮らしをサポートしたいと考えています。

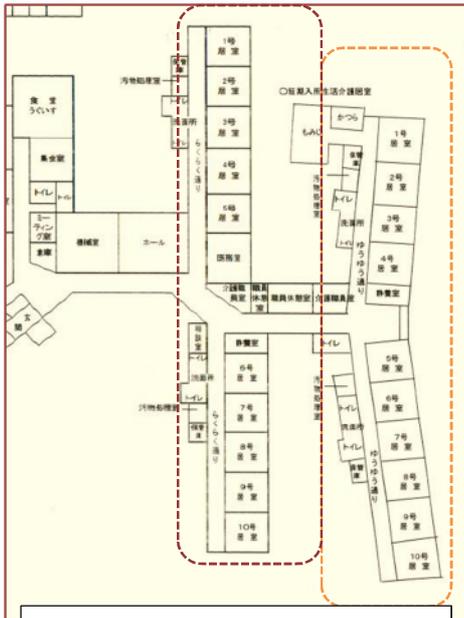


介護長
4?歳

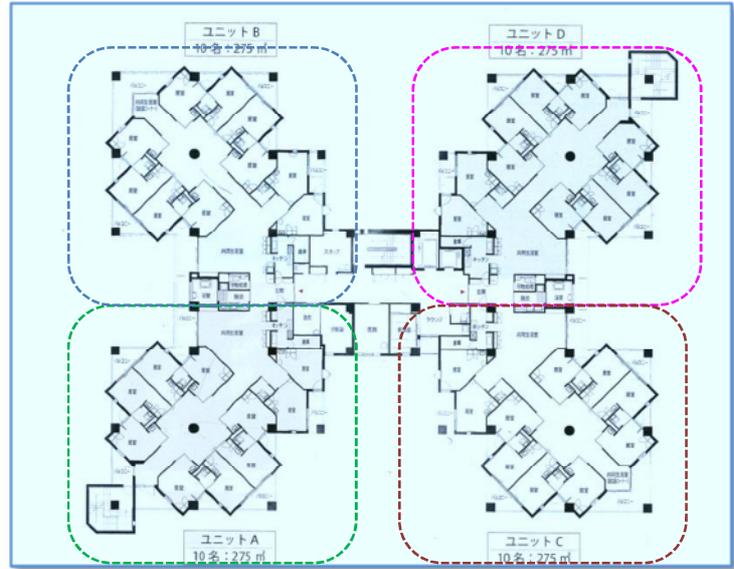
私達は、ユニットケアを導入して「入居者のそばにいて」、「入居者の声を聴き」、「入居者の生活を支えていく」ことにより、入居者の「願い」や「希望」を少しでもかなえることを目指したいです。

そして、入居者と「楽しく生活を共にすること」を目指して施設に勤めたにもかかわらず、流れ作業的な介護に追われ悲観的な気持ちになっていた職員の「あきらめの気持ち」を「希望」へと変えるきっかけにもしたいと思って、日々、ユニットケアの勉強会や視察等を行っています。

Q2 これまでの特別養護老人ホームとどこがちがうのでしょうか



【現在の日赤鶯鳴荘の平面図】
1部屋4人×1区画10室×2棟の長屋入居方式となっている。食堂と浴室は別棟に1箇所ある。



【新たなユニットケア施設（1階）のイメージ図】
1部屋1人（個室、トイレ・洗面所装備付）×1区画10室（1ユニット毎にリビング、浴室、談話室等配置）×4ユニット×2階（特養）+2ユニット（ショート）を想定。

A 現在の特別養護老人ホームでは、入居者一人ひとりのことを考え、個々のニーズに合わせた生活をしていただこうとしても、大きな集団（1棟40人）の中で、「毎日毎日同じ時間に同じことをする」、「毎週毎週同じ曜日に同じことをする」といった「型にはめられた生活になりがちである」ことは否めませんでした。

入居者一人ひとりが「今何かして欲しい」時でも、職員や他の入居者に対し遠慮し、我慢している場面を見かけることがあります。例えば「今、水が飲みたくとも飲めない」、「今、トイレに行きたくてもすぐ行けない」ということもあり得ます。このような我慢と遠慮の生活を続けているうちに、その生活に慣れて「これが私の生活」と思い違いをしていることも、また、「これで仕方ないんだ」とあきらめてしまうこともあります。

ユニットケアは、施設に暮らしている入居者の気持ちを他人事ではなく、「自分事」として受け止め、入居者の願いに応えることを目指します。そのために、入居者をいくつかの小集団（ユニット）に分けて、従来の集団的、画一的に提供されてきた「流れ作業的なケア」を改め、「なじみ（隣近所）の関係と家庭的・個別的なケア」を大切にします。このようにして、入居者にとって望ましい適切なケア（人間関係）と環境（暮らしの場）をつくり、「生活をともにするケア」を目指します。

こうしたユニット型特別養護老人ホームは、2003年（平成15年）に国が制度化を行っています。



自分が高齢になり、何らかの理由から自宅で住み続けられなくなった時、あなたは次の住まいや暮らしはどうありたいと思いますか。「今までと同じように・・・」きっと誰もが、そう望むでしょう。

ユニットケアが大切にしていることは、「介護が必要な状態になっても、ごく普通の生活を営むこと」です。

生活の基本行為としての起床、食事、入浴、就寝は、今までの暮らし方の継続を基本としながらサポートしていきます。

他の入居者と趣味活動や交流、外出なども大切にします。その人のペースで暮らしが営まれることを支援していきます。